



(2) 「死とともに生きる」とは？

「自然＝死」を恐れることは古代からあった。「生と死」が対立して考えられてきたことをオデッセ物語を例に取りながら説明。

ところが、アメリカのジャーナリストであるベティ・フリーダンは「自然＝錯綜状態＝死」への恐怖から解放された「死と和解した生」への可能性をさぐるようになった。

それにかかわるのが競争原理で、「自己保存」のために生と死を管理しようとする強迫観念であり、近代の人間はこの考え方にとりつかれている。この「生と死の管理」を克服すると言ふことは「死ぬ権利」の獲得の問題でもある。これは臓器移植、中絶、安楽死などの問題をどう考えるか、と言ふことにつながる。

ベティ・フリーダンは「死と和解した生」のイメージをホスピスに重ね合わせて述べている。死を目前とした生も含めてあらゆる人生の時期の生が「あるがままの生」として意味を持つ。そしてこのような生の意味づけは「他者による承認」によって始めて可能になる。「誰かがかたわらにおり、ただその人のために付きそろう」「看取り」そのものが生に意味を与えている。

3. 具体的な展望

高齢者が死と生を取り戻し、死と向き合った生を生きる「主体」となるためには、「他者がかたわらにいたり、それを必要とする。他者が「主体」の存在を認め、「主体」もまた他者の存在を認めるといふ相互承認を介して始めて「主体

は己の死という自然への恐怖を克服し、自然や死と和解した「主体」となる

「高齢者」の主体化は市場外の地域コミュニティの活性化によって可能になる。そのプロセスは「市場外空間における人間活動の促進」すなわち「もうからないかも知れない。しかしそこには人間とのつながりがあって楽しい。そうであってもよいね、という空間」を作ること。必ずしも対価を要求せずに済ませるためには、自己の存在が絶対的に保証されているという安心感が必要である。

「労働」とは賃金をもらうためである、と考へるのは労働市場の考え方である。本来は他人のためになり、結びついていると感じることはないだろうか。

味噌づくりをしました



昨年数人で作った味噌が美味しかったので今年も皆さんに声をかけて、3月12日に味噌づくりをしました。地域の絆から5人の利用者さんが参加して下さい、総勢15人でした。

前日から煮ておいた大豆を潰して、味噌作りをする人、昨年の味噌を使って豚汁用の野菜を切る人、おにぎりを作る人、果物の皮をむく人と、それぞれが仕事を分担してワイワイと楽しいひとときを過ごしました。

この場は藤原さんのリードで進みました。そ

れぞれに仕事を振り分ける鮮やかさ。さすが社会福祉協議会で高齢者と関わってこられたことが生きていました。

地域の絆の方の中には、とてもカツラ向きがお上手な方や、むいた果物が口に入る方など。また、「味噌はよく作っていた」という方がいらつしやう、豆の潰れ方を見て、「これならいいヨ」と許可がおりました。職員の方も「はじめて味噌づくりをした」という方もありました。それぞれが作業に参加されたからか、ホームに帰られてからもしばらくは「楽しかった」と話されていたそうです。また高齢者の方々と一緒に味噌を作ったり料理を作ったりする中で、教科書的な「高齢者像」ではなく、生身の高齢者像を学べたように思います。



### 花見に行きました



味噌づくりに集まった人で福山城に花見に行きました。それぞれ料理等を持ち寄り、満開の桜の下で花を愛で、舌つづみを打ちました。とっても美味しそうですよ。

来年は皆様に声をかけます。



### 地域の絆 鯉まつり「仁」

#### 出店しました



「こども」の日の5月5日に、地域の絆で「鯉まつり」が開催され、ルネッサンスからもいつものようにリサイクルバザーを出店しました。

あいにくの雨で室内での「鯉まつり」でした。狭いのでお互いの体が触れ合うようでしたが、それはそれで良かったように思いました。

また、昨年の「仁伍音楽祭」の時のように地域の絆の利用者さんと小物づくりをして「鯉まつり」で販売しました。1日目は18人、2日目は13人の参加があり、指導していただいた桑田さん、お手伝いしていただいた江藤さん、可世木さんも大変でした。人数も予想外に多く、しかも準備期間も短かったことから、前回に比べそれぞれが工夫出来るようにしたり、色々な作業が少なかったのが残念だったかなと思います。3日目は利用者さんと職員さんと一緒に販売用の看板づくりをしました。「わたしたちが作りました」の字を書くと、看板に貼り付ける折り紙のこいづくりになど、それぞれが出来たことを、出来るようにやりながら出来上がりました。今回は男性の方が3名来られ、「女性の集まりに初めて出てきたけど楽しいなあ」とおっしゃっていました。売り上げは今ひとつで、これからひと工夫が必要だろうな、と思います。



利用者が売子ちゃんをしています♪



利用者が協力して作った看板です

## 編集後記



先日、事務所の裏山の草むしりをしました。雑草の量に驚きましたが、色々な虫の赤ちゃんに出会えました。静かな山の中でも、春の準備が確実に進んでいたようです。とても小さなカタツムリ、バッタ、青虫など。あまり出会いたくないヤブ蚊やヤモリたちもいました(汗)。我が家の6才になる虫採り大好きな息子を連れてきたら、きつと大喜びすることでしょう。

きれいな花や若葉が目を楽しませてくれ、5月は一年でも一番よい季節ですね。新たな気持ちで物事に取り組むことが出来る時期でもあります。見易い紙面作りを心がけていきたいと思えます！(原田)

